

令和6年度 長野×沖縄交流事業

# 琉球花火 復元と 清内路の 手づくり花火

本年10月6日、阿智村上清内路の手づくり花火の打上げにあわせて、上清内路煙火同志会製造の噴き出し花火を装着した琉球国のからくり花火「双龍」が披露されました。ここに約200年前に琉球国王が見ていた本来の輝きが、清内路が伝える日本古来の和火によって蘇ったのです。

本講座では、当日の花火の映像を上映し琉球花火の特徴を解説いただくとともに、それとの対比などを通して、清内路の手づくり花火をはじめとする南信州の花火文化の特徴をさぐります。

令和6年 **11月16日(土)**  
13:30～16:00

会場：阿智村中央公民館

駐車場は阿智村中央公民館裏側の駐車場をご利用ください。

お問い合わせ

阿智村教育委員会 社会教育係

住所 阿智村駒場 468-1 (阿智村中央公民館内)

TEL 0265-43-2061・FAX 0265-43-2350

e-mail kominkan@vill.achi.lg.jp

南信州民俗芸能継承推進協議会事務局(南信州広域連合内)

住所 飯田市追手町 2 丁目 678

TEL 0265-53-7100・FAX 0265-53-7155

e-mail shinkou@minami.nagano.jp

**参加無料**

当日参加も可能です。

準備の都合上  
事前のお申込み  
にご協力ください。



南・信・州  
民俗芸能  
Minamishinshu Folk Arts



主催：阿智村、長野県、信州アーツカウンシル、南信州民俗芸能継承推進協議会  
後援：上清内路煙火同志会、下清内路煙火有志会、国立劇場おきなわ、沖縄県  
令和6年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

◎長野県と沖縄県は交流連携協定を締結しています

令和6年度 長野 × 沖縄交流事業

# 琉球花火復元と清内路の手づくり花火

日時: 令和6年11月16日(土)13:30~16:00 会場: 阿智村中央公民館

13:30 ~ 開 会・あいさつ

13:40~14:25 「琉球花火とその復元」

茂木仁史氏 (国立劇場おきなわ 調査研究専門嘱託員、芸術学博士)

14:30~15:00 「南信州の煙火文化と清内路の手づくり花火」

櫻井弘人氏 (國學院大學兼任講師)

15:10 ~ 16:00 座談会 「琉球花火と清内路の手づくり花火」

パネラー: 茂木仁史氏 (同上)

櫻井信和氏 (上清内路煙火同志会)

門野祐一氏 (下清内路煙火有志会)

関島善純氏 (関島煙火製造所社長)

コーディネーター: 櫻井弘人氏 (同上)

コメンテーター: 小川直之氏 (国立劇場おきなわ 運営財団理事・國學院大學名誉教授)



16:00 閉 会

## 琉球国の「からくり花火」の復元

かつて琉球国の首里城では、国王や来賓の中国人のために、精緻な仕掛けの「からくり花火」が披露されました。その担い手は首里の士(サムレー)で、家の名誉を懸けた仕事でしたが、琉球国の消滅とともに花火の伝統も消えてしまいました。

国立劇場おきなわでは、『火花方日記』という1838年の花火の記録をもとに、からくり花火の復元に取り組み、記録にある5基の仕掛けを復元しました。ただし、沖縄では鉄粉を用いる近世の花火製造技術が伝承されていないため、現代の西洋式花火を使用したものでしたが、このたび上清内路煙火同志会が製造した噴き出し花火を使うことで、本来の輝きの復元を試みたのです。



▲「双龍」(『火花方日記』那覇市歴史博物館蔵より)

## 琉球国の「からくり花火」—「双龍」

からくり花火は、ひとたび導火線に火を点けたら、あとは花火とからくりが次々に展開していく仕掛けです。『火花方日記』には5基の記録があり、それぞれテーマが異なり、ストーリー性のある展開を見せます。

そのうちの「双龍」は、最初に五色の瑞雲が宙空に浮かんでいます。導火線に点火すると、照明となる花火(硫黄花火)が光を発し、激流を泳ぐ鯉が現れます。鯉は2頭の龍となって瑞雲から降りて、宝珠を中心に大空を翔ります。瑞雲の左右の円盤が激しく回って風を起し、左右に噴水のような雨を降らせ、やがて中央に太陽が昇るのです。その様子は、2頭の龍に守護される琉球国が、豊かな自然と恵まれた気候により栄えている様子と思われまます。



▲復元した「大団羽」(2019年 国立劇場おきなわにて)

## 清内路の手づくり煙火

阿智村の旧清内路村に伝わる花火は、「清内路村の手作り花火」の名称で長野県の無形民俗文化財に指定されています。その歴史は1717年(享保2年)まで遡り、またその特徴は、自らが作った炭に硫黄と硝石を調合した火薬「和火」の製造から、仕掛け・消費まで、すべてを自分たちで担うところにあります。仕掛けには、手筒・網火・花傘・巴車・噴水・棚火・葡萄棚・焼字・滝・神前・大三国など。下清内路では諏訪神社の境内で伝統的な囿い檜で打ち上げる形を保持するのに対して、上清内路では諏訪神社横に造成された広場で、新たな工夫をこらした仕掛け花火を披露します。これら清内路の花火は、手づくりだった当時の面影をいまでも色濃く伝える南信州の花火文化の、まさに神髄を伝えています。



▲上清内路の手づくり花火